

## 第1回奈良県自転車活用推進会議 議事録

日時：令和2年10月26日（水）14:00~16:00

場所：奈良商工会議所 4F 小会議室

### 委員からの主な意見

#### ○ 評価指標、指標値について

（古倉委員）

- ・自転車利用率が50%程度という数値は大きいと感じる。データの取り方を工夫した方がよいのでは。
- ・自転車通勤を推進する企業・団体の認証制度が創設されているため、その制度を活用していくことも考えられる。
- ・電動アシスト自転車を普及させていくため、経済産業省の補助を活用することも考えられる。
- ・ドライバーの安全啓発にあわせて、ドライバーに対する交通安全教育を行っていくことも大切である。
- ・自転車利用安全五則は、なぜ守らないといけないのかを根拠を示しながら理解してもらうことが重要。

（山中議長）

- ・自転車事故のデータを示しながら、事故の危険性について広めて頂きたい。

（藤本委員）

- ・奈良県は公共交通との連携が弱いと感じている。駅等にサイクルステーションの設置をしていくのがよい。
- ・E-Bike等のスポーツバイクのレンタサイクルも取り入れながら、普及を進めていく必要がある。
- ・自転車通勤については、導入事業者への補助等、もう少しインセンティブがあればよいと思う。

#### ○ サイクリストにやさしい駐車場について

（古倉委員）

- ・サイクリングのスタート地点の施設として、40代・50代では自転車駐車を多く揚げている。ターゲットについて、施設側とよく相談し、取組を進めていくとよい。

#### ○ 世界遺産周遊サイクルルートについて

（藤本委員）

- ・サイクルツーリズムは単にわかりやすいだけではなく、歴史的なまちなみの間の道を通る方が面白い時がある。
- ・世界遺産周遊サイクルルートは一般観光客等の初級・中級者層がターゲットになるのではないかと思う。
- ・ピワイチにある標識は、サイクリストの目の高さに合わせたり、歩道と車道の境界に設置する等の工夫がされている。

（三船委員）

- ・看板にQRコードを掲載すると奈良県自転車利用総合案内サイトも有効活用できると思う。
- ・奈良にも誇れる景色がたくさんあるので、奈良の魅力を上手に伝えてアピールして頂きたい。

(山中議長)

- ・自転車だから楽しい場所もある。
- ・自転車に関する取組を行っている人たちを巻き込みながら、自転車施策に関わる人をどう育てていくかが課題である。
- ・ルート全体を一度に整備するのではなく、必要なところから整備を進めていくほうがよい。
- ・サイクルルートについて、どういった層をターゲットとするか重要である。
- ・サインは目の高さと同じ 1m50cm に設置してはどうか？
- ・サインの情報量が多いので、見てもわかりやすいように工夫する必要がある。
- ・案内サインのベースは紫色でよいと思うが、ならクル看板の緑マークを活用など、統一感を出してはどうか。

(佐野委員)

- ・自転車は幼少期から高齢者まで利用するため、サイクルルートを使った自転車の楽しみ方がうまく伝わるように工夫して頂きたい。

(古倉委員)

- ・サイクリストにも歴史を楽しんでもらえるようにするにはどうしたらよいか、今後考えていく必要がある。

○その他

(山中議長)

- ・官で進めていくだけでなく、民間のビジネスとしても進めていく仕組みを構築していくため、地域で積極的に取り組んでいる人たちが交流できる場をつくる必要がある。

(藤本委員)

- ・しまなみとビワイチの共通点は、官と民の連携がうまくいっており、ベースには地域での地道など努力があった。